

法圓寺だより

第60号

法圓寺のコロナ対応について

きょうさんほうえ
慶讃法会ご巡教は再延期
来年六月十二日(日)に勤修

昨年早春からの新型コロナウイルスの感染拡大が終息せず、隣の燕市でも、かなりの数の感染者が確認されております。

このような状況です。で、感染拡大防止の観点から、法圓寺でも二月の涅槃会(だんごなげ)、三月の仏教婦人会総会を中止とさせていただきます。春彼岸会は、規模を縮小して、午前中だけ執り行わせていただきます。

また、本年六月に延期をした「ご巡教」だけは何とか勤修させていたできたか



つたのですが、このような状況です。で、残念ながら、来年、令和四年の六月十二日(日)に再延期させていただきます。来年になりまして、詳しい案内文をお届けさせていただきます。

さて、法圓寺でも、コロナ感染防止対策を行って

ります。本堂と湖山舎入り口には、アルコール消毒液を設置し、法話の講師の前には、飛沫防止の亚克力パーティションを設置しています。また、トイレの手洗いのタオルをなくして、代わりに使い捨て紙タ



オルを置いてあります。

また、本堂での法要は、密にならないよう、人数を制限して行っております。し、換気も適宜行っております。お寺での法要、また、ご葬儀やご法事の際も、ご安心して大勢の方からお参りしていただきたいと思います。

ご縁をいただき

吉田地区総代

渡辺 淳

名総代でいらつしやいました。今井誠一様の後任として、令和二年二月から吉田地区総代を務めさせていただきました。



法圓寺様には昭和六十二年から檀家のお仲間に入れていただきました。今まではお盆等で墓参りをするくらいで、誠に不信心な生活を送ってまいりました。そんな折、総代のお話をいただき、こんな私に大役が務まるか不安や迷いもありましたが、これも仏様からいただいた大切なご縁と考

え、お引き受けするに至りました。

不信心で無知な私ですが、八年前から毎年三月に京都を訪れ、本山佛光寺にお参りをするご縁をいただいていたりました。ご本尊様にお参りし、静寂のお堂の中でひと時を過ごさせて

いただくのですが、そこには日常とは違った何とも言えない空間が存在し、仏様のお導きなのでしようか、穏やかで落ち着いた自分がそこにあることをいつも感じてまいりました。

コロナ禍で今年も行けそうにありませんが、新たな自分や明日への道標をいただくため、また必ずや本山佛光寺を訪れたいと思っております。また、今後は、より身近な存在である法圓寺様の諸行事等を通して仏様の教えを学び、その教えを日ごろの生活に生かしてまいりたいと思っております。

来年は、コロナ禍で延期されていた「慶讃法会」御巡教の勤修が予定されております。御巡教の円成に向け、微力ではありますが皆様とともに誠心誠意励んでまいります。不出来な私ではありますが、総代にさせていただきます。ご縁に感謝しつつ、ご住職様、檀家の皆様のご指導のもと、誠意をもって務めて参りますので今後ともよろしく申し上げます。

合掌



テレホン法話

世界終末時計

世界終末時計

皆様は世界終末時計という言葉聞いたことありますか？これは核戦争などによる人類の終末を午前零時になぞらえ、その終末までの残り時間を「零時まであと何分何秒」という形で象徴的に示す時計です。日本への原子爆弾投下から二年後の一九四七年に、アメリカの科学誌『原子力科学者会報』の表紙絵として誕生したものです。以後、同誌は定期的に委員会を設けて終末時刻の修正を行って来ます。すなわち、人類滅亡の危険性が高まれば分針は進められ、逆に危険性が下がれば分針が戻されることもあります。一九八九年十月号からは、核兵器からの脅威のみならず、気候変動による環境破壊や生命科学の負の側面による脅威なども考慮して、針の動きが決定されているのだそうです。これが二〇二〇年には昨年よりも二十秒進んで、人類滅亡まであと百秒になりました。原因は、アメリカと北朝鮮や中国の対立、宇宙・サイバー空間上における軍拡競争の激化や気候変動に対する各国の関心の低さ等が原因だということです。人類滅亡まであと百秒と聞くと、ぞつとしてしまいます。

「共命鳥（ぐみょうちよう）」

さて『阿弥陀経』に「共命鳥」というお浄土の鳥がでてきます。この鳥は美しい羽毛をもち、きれいな声で鳴きます。体は一つですが、頭が二つあります。そういう体ですから、二つの頭はお互いに思い通りにならず、いつしか互いに憎みあうようになり、一方の頭が他の頭を殺してしまつたそうです。ところが体は一つしかありませんので、頭を殺すことによつて体も死んでしまい、結局は他の頭を殺した方も死んでしまつたそうです。

最近のアメリカと北朝鮮や中国の対立を見ると、もし不測の事態が起きて、核戦争でも始まつたらどうしようという恐怖を感じます。そのような事態になれば、今は敵だけではなく、地球自体を破壊し、結局自分達も生きてゆけなくなるでしょう。それはまさに「共命鳥」の話と同じことになってしまいます。

いのちのぬくもりを大切に

先ほど申し上げた愚かな事があつてから、お浄土の「共命鳥」は「他を滅ぼす道は己を滅ぼす道、他を生かす道こそ己の生かされる道」と鳴き続けていると言います。これは鳥の姿に表された仏さまのみ教えです。私たちは一人一人が地球上に生きる「共命鳥」なのです。他を力づくで排除しようとするれば、自分自身も滅びてしまうのです。その「共命鳥」が頭二つのままに、しかも生き生きと生きていける世界、それが浄土の世界だと『阿弥陀経』は教えてくれています。浄土のはたらきをあらわす一つの言葉とし

て、浄土には「共命鳥」という鳥がいると説かれていたのです。私たちもいたずらに対立することなく、常に他のいのちのちとつながり、お浄土を願ひながら、いのちのぬくもりを大切に生きて行きたいものです。（令和二年十一月作成）

本山慶讃法会特別護持金完納

昨年よりご門徒の皆様へ、ご本山の慶讃法会特別護持金納入のお願いをさせて頂いてまいりました。誠にありがとうございます。その特別護持金を、令和二年一月と十一月に合わせて約二百七十万円、ご本山に振り込ませていただき、完納させて頂いてまいりました。写真はその領収証の写真です。コロナ禍もあり、世帯収入が減少する中、定められた金額をご納入いただき、有り難うございました。心から御礼申し上げます。なお、後日ご本山より早期納入還付金が振り込まれる予定です。



ボランテイヤ紹介
成田一男様



一昨年からは、ボランテイヤで、法圓寺の庭園や墓地の葉っぱのお掃除をしてくださっている方がいらつしやいます。旧吉田町の成田一男様です。成田様は大工さんの棟梁であり、法圓寺の吉田弥生町・寿町の世話方もお勤めいただいております。

晴れた日になると、ブロアーを使ってよく葉っぱを掃除していただいております。最近は少し足腰も弱ってきているそうですが、掃除をして庭が綺麗になると気持ちが良い」と、足繁く法圓寺に通ってくださっています。本当に感謝しております。

前住職十三回
忌法要等勤修

前住職・無極院釋哲雄師は、平成二十一年五月十一に行年八十歳をもって還浄いたしました。早いもので、それから丸十二年が経過して、今年十三回忌法要を本堂で勤修いたします。

それに合わせて、法圓寺第二代住職・平等院釋舜源師の四百五十回忌法要もお勤めいたします。法圓寺はこの舜源師の時代に浜首から矢作の地に移転したとつたえられております。日時は五月十六日(日)午後三時からです。

コロナ禍ですので、親戚と一部世話方のみで執り行わせていただきます。



内孫の二男「日知」誕生
長男「慶哉」は二歳四ヶ月に！



令和三年二月二十二日午前零時二十五分頃、三条市の「茅原クリニック」にて法圓寺の孫の二男が誕生いたしました。身長は五十センチ、体重は三〇一二で生まれてきてくれました。母子とも元気で、私も大変喜んでおります。二月二十八日に無事退院してきました。名前「日知（はると）」と名づけられました。先見の明がある人になって欲しいという願いが込められているようです。今年にはコロナ禍のため、立ち会いにもお見舞いに行きませんでしたが、本日

退院してきて、初めて対面いたしました。

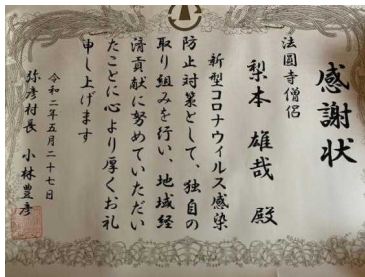
まだ赤っぽい顔ですが、なかなかしつかりしているなと感じました。一方、長男の慶哉は、二歳四ヶ月になり、身長八十六センチ、体重十四kgになりました。よく食べますし、最近ほだいぶお話しするようになり、少し前は、男性が苦手、就職の顔を見ると泣いていましたが、最近「いいじ」となつてきています。



日知が慶哉とともに元気で仲良く成長するように願っております。法圓寺の二人の孫をこれからも宜しくお願い申し上げます。

当院、弥彦村から表彰

法圓寺当院・梨本雄哉は、新型コロナウイルス感染症に対して自主的に活動したという事で、昨年五月二十七日、弥彦村より感謝状を贈呈されました。当院は、お持ち帰り、配達ができる弥彦村の飲食店を掲載したスマートフォンアプリ「テイクアウト弥彦」を弥彦村商工会ともに立ち上げたことが評価されました。コロナで売り上げが落ち込む飲食店のために、「何かできることはないかと考えて、このアプリを立ち上げました。その中で、梨本雄哉殿が新型コロナウイルス感染症防止対策として、独自の取り組みを行い、地域経済貢献に努めていただいたことに心より厚くお礼申し上げます。令和三年五月二十七日 弥彦村長 小林豊彦



みさをさらけから、寺の地蔵に、開かれ、お寺のよき期待を込めて。

今年の主な行事

- 2月15日 涅槃会（中止）
- 3月20日 春彼岸中日法要
- 3月26日 法圓寺仏教婦人会総会（中止）
- 5月8日 仏教会花まつり（中止）
- 5月16日 前住職13回忌法要
- 6月27日 法圓寺世話方会議
- 7月7日 へびお講
- 7月18日 法中講（称名講）
- 8月1日,2日 盆参会
- 8月13日 墓参
- 9月23日 秋彼岸中日法要
- 10月6日 ご本山差し向け布教
- 11月17,18日 法圓寺報恩講
- 12月31日 除夜の鐘（14時より）

一周忌	令和二年
三回忌	平成三十一年
七回忌	平成二十七年
十三回忌	平成二十一年
十七回忌	平成十七年
二十三回忌	平成十一年
二十七回忌	平成七年
三十三回忌	平成元年
三十七回忌	昭和六十年
五十回忌	昭和四十七年
百回忌	大正十一年

ご法事のお申し込みはお早めに！

あとがき

昨年六月に左眼、今年一月に右眼の手術を受け、五日間ずつ入院してきました。両方とも白内障と網膜はかなりよく見えるようになり、歪みがひどく、まるで絵画「ムンクの叫び」のような見え方です。だんだんよくなると思いますが、不安の中で生活しています。老いを楽しむという境地には、まだ達していませんが、これからは老いと向き合う生活が始まるのだと感じています。（住職記）

